

新害虫チュウゴクアミガサハゴロモに注意

農業革新支援担当 小俣良介

2024年9月以降、白い綿のようなものが付着した徒長枝が散見される茶園が多くみられた。これはチャでは国内初確認となる新害虫チュウゴクアミガサハゴロモの産卵痕であることがわかった。今後、産卵部位よりも先端の枝の部分の枯死、ふ化幼虫による被害等が心配される。発生動向や被害に注意が必要である。

1 発生確認の経緯

2024/8/24

白い綿様物質をまとった幼虫が茶園で発生と生産者から写真鑑定依頼があり、この時はアオバハゴロモの幼虫ではないかと返答。

2024/10/10

ブルーベリー等を加害する新害虫チュウゴクアミガサハゴロモの特殊報（神奈川県、8月14日）について、埼玉県でも庭木や茶園で成虫を見かけるので注意が必要と埼玉県病害虫防除所の高橋技師と話し合った。同日の午後、高橋技師が県内の茶園で本種成虫によるチャ枝条への産卵を確認し、チャを加害することが明らかになった（本邦初確認）。その後、県内の各地域の茶園でも産卵加害を確認した。8月に鑑定依頼された幼虫もチュウゴクアミガサハゴロモであった可能性が強く、6月の所内茶園でも本種の幼虫を宮田研究員が写真撮影していた。

2024/10/31

埼玉県でチャ、キク科草本植物の一部（本邦初確認）、ナシ、ブルーベリー、カンキツ等でも産卵加害が発生し、特殊報を発表した（全国2例目）。

2024/11/27 福岡県（カンキツなど）で特殊報

2024/12/18 山梨県（モモなど）で特殊報

2025/01/21 東京都（チャ、植木類、果樹類）で特殊報

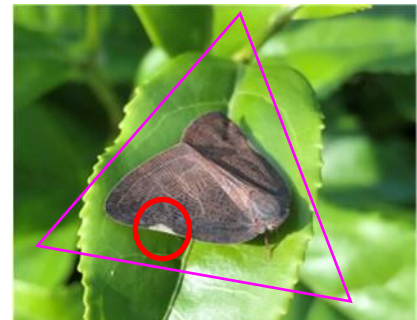


図1 チュウゴクアミガサハゴロモの成虫

- ・止まった姿は三角形
- ・翅の白斑も三角形（赤丸内）

2 形態と生態

成虫の翅端までの体長は14～16mm、前翅は茶褐色～鉄さび色、前翅の前縁中央部に三角形の白斑（図1）が存在する。在来のアミガサハゴロモは似ているが前翅の白斑は台形である。幼虫は白色で、腹部から白い糸状のロウ物質を広げる。

成虫は予察灯に捕獲される。7～11月にかけて発生がみられる。9～11月にかけて柔らかい枝に産卵し、枝の中は卵で充満する。枝の外側はろう状物質で覆われる。

3 今後の注意点

茶園における発生は不明な点が多い。秋整枝によって大部分の産卵痕は除去されたと考えられるが、刈り落とした産卵痕からの卵のふ化が可能かどうかは不明である。また、成虫の発生時期が長かったため、刈り落とし後にも再び茶株の上部に産卵されたケースもある。今後、枝の枯死や幼虫による被害に注意する。

特に秋整枝をしない手摘み園では、産卵痕よりも先端の部分の枝条の枯死が心配される。問題が生じた場合はすみやかに茶業研究所に連絡してほしい。